

寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

団体名	NPO 法人しまね体験活動支援センター
テーマ名	環境の保全(宍道湖を中心とする水辺の環境保全)
事業名	第 14 回斐伊川・神戸川流域環境マップづくり事業
事業費(うち助成金額)	1,236,466 円 (200,000 円)



■事業目的

国土の保全や安全な生活環境の保全を将来担う子ども達が、山や川などのふるさとの自然や自然の摂理を理解しないまま大人になってしまうことへの大きな危惧がある。ふるさとの川へ直接入って川の石をひっくり返し指標生物である水生昆虫を探すなどの河川調査体験は、ふるさとへの愛着を育み河川環境を理解する子どもを育てる有効な手段である。宍道湖への流入河川の汚濁負荷量は減少しているが、水質の改善は進んでいない状況である。宍道湖に限らず流域住民全体が河川湖沼の水質改善に関心を持ち、自分のできることから実践していくための環境づくりとして、子ども達が身近な河川や湖の水質調査を実施し、調査結果やそこからの気づきなどを地域に情報発信していく。

■事業内容

調査に参加する小・中学校等が春・夏と秋に河川環境調査を実施し、その調査データを元に島根県の Web-GIS 地図に記録することで流域河川環境マップを作成した。

- ①河川調査指導者研修会を開催 ②調査支援のための調査用具・試薬を配布 ③夏の宍道湖親子水質等環境調査実施
- ④源流・ダム・斐伊川放水路・河口・宍道湖等の見学 ⑤成果発表会の開催 (活動成果の共有化と活動の質の向上)
- ⑥調査担当者アンケートの実施 ⑦年間活動報告書・マップの作成と配布 ⑧HP での流域環境マップ (Web-GIS 地図) の作成と公開

調査参加校は 12 校。夏休みに親子体験活動として船で宍道湖に出かけて宍道湖の水質や生物などの環境調査を実施した。夏の宍道湖環境調査を含めて河川調査参加児童・生徒数は延べ 314 人だった。

■事業成果と今後の展望

(将来的な広がり)長年の継続実施で、指導者である教員の研修参加が増え河川環境マップづくりの理解が広がってきた。総合的な学習の時間や中学校理科の時間の縮小等の情勢の変化で時間のかかる河川調査が取り組みにくくなってきているが、島根県教育委員会の方針である「ふるさと教育推進」の力を得て、今後も継続して行いたい。

(活動の継続性) 島根県では少子化・過疎化が進み学校の統廃合が進んでいるが、今後もより多くの学校・公民館・エコクラブ等が参加してもらえるように島根県中山間地域研究センターや国土交通省出雲河川事務所等とも協力して参加者募集や広報に努め継続実施を図りたい。

河川環境マップづくりは平成 14 年 (2002 年) から 19 年間継続して実施している。島根県との共催事業であり流域教育委員会の理解と協力を得て実施できているので今後も継続できる。毎年、河川調査終了後に指導者アンケートを実施して改良点を探り、次年度以降の調査手法等に活かすように努めている。